

## 18 生徒の事故

### (1) 学校内

対応内容	処置内容	対応者
応急処置 応援依頼	○発見者は応急処置を施し、応援を求める。 ○管理職・養護教諭等への連絡をする。	発見者 応援者
対応連絡 病院搬送	○救急車：学年クラス・性別・氏名・傷病の程度 搬送病院名・タクシー・電話番号 ○保護者：事故の状況・傷病の程度・搬送先病院名	副校長・教頭 保健主事 養護教諭 学級担任 部顧問
状況調査	当事者の学年・クラス・性別・氏名・状況 発生場所・時刻・原因・傷病の程度 保護者名・保護者との連絡状況等	副校長・教頭 学級担任 部顧問
状況報告	病院→学校 (到着時刻・傷病名と治療の状況) ※ 学級担任等が必ず付き添う。	養護教諭 学級担任 部顧問
関係諸機関連絡	学校→県教委等 (病院からの連絡を待ち、傷病の程度で校長が判断)	校長

#### 【留意事項】

- ① 保護者への連絡は、相手を動揺させることのないよう、落ち着いて連絡すること。  
(事故の状況、傷病の程度、搬送先病院名、付き添い職員名、保険証の持参等)
- ② 万一事故が発生した場合には、次ページの緊急連絡体制表により、関係者および関係諸機関に速やかに連絡すること。
- ③ 加害者がある場合には、その加害者の保護者に対しても必ず状況説明の連絡をする。
- ④ 生命にかかわる事故等の場合は、校長もしくは副校長・教頭が病院に赴く。
- ⑤ 事故者を病院等へ搬送する場合には、救急車かタクシーを利用し、職員の自家用車等は使用しない。
- ⑥ 報道関係者・部外者等への対応は、校長もしくは副校長・教頭が行う。

## (2) 学校外

対応内容	処置内容	対応者
事故発生の連絡受報	学年、学級、性別、氏名、発生場所、怪我の状況、対応状況（搬送先病院名）等について聴取してしっかりメモをする。（相手がいれば、その氏名、年齢、性別、住所、電話番号等）	校 長 副校長 教 頭
組 織 編 制	受報者が副校長・教頭へ直ちに連絡する。その後、学級担任、副担任に学年主任、生徒指導主事に連絡する。	副校長 教 頭 学級担任 学年主任 生指主事
現 状 確 認	学級担任は、保護者が事故について知っているか確認する。学級担任が搬送先病院に見舞う。（保護者にとっては異常事態であることを忘れず、その感情を理解しながら話すようにする。）生徒指導主事は、事故現場に赴き、現場の確認と状況の聴取等を行う。	学級担任 学年主任 生指主事
状 況 報 告	緊急を要する事態であるときは、できるだけ早く校長・副校長・教頭にその旨を連絡する。そうでない場合は、見舞いが終わって現在の状況、保護者の状況を連絡する。	校 長 副校長 教 頭
関 係 機 関 連 絡	県教委への連絡は、校長が判断し連絡する。	校 長

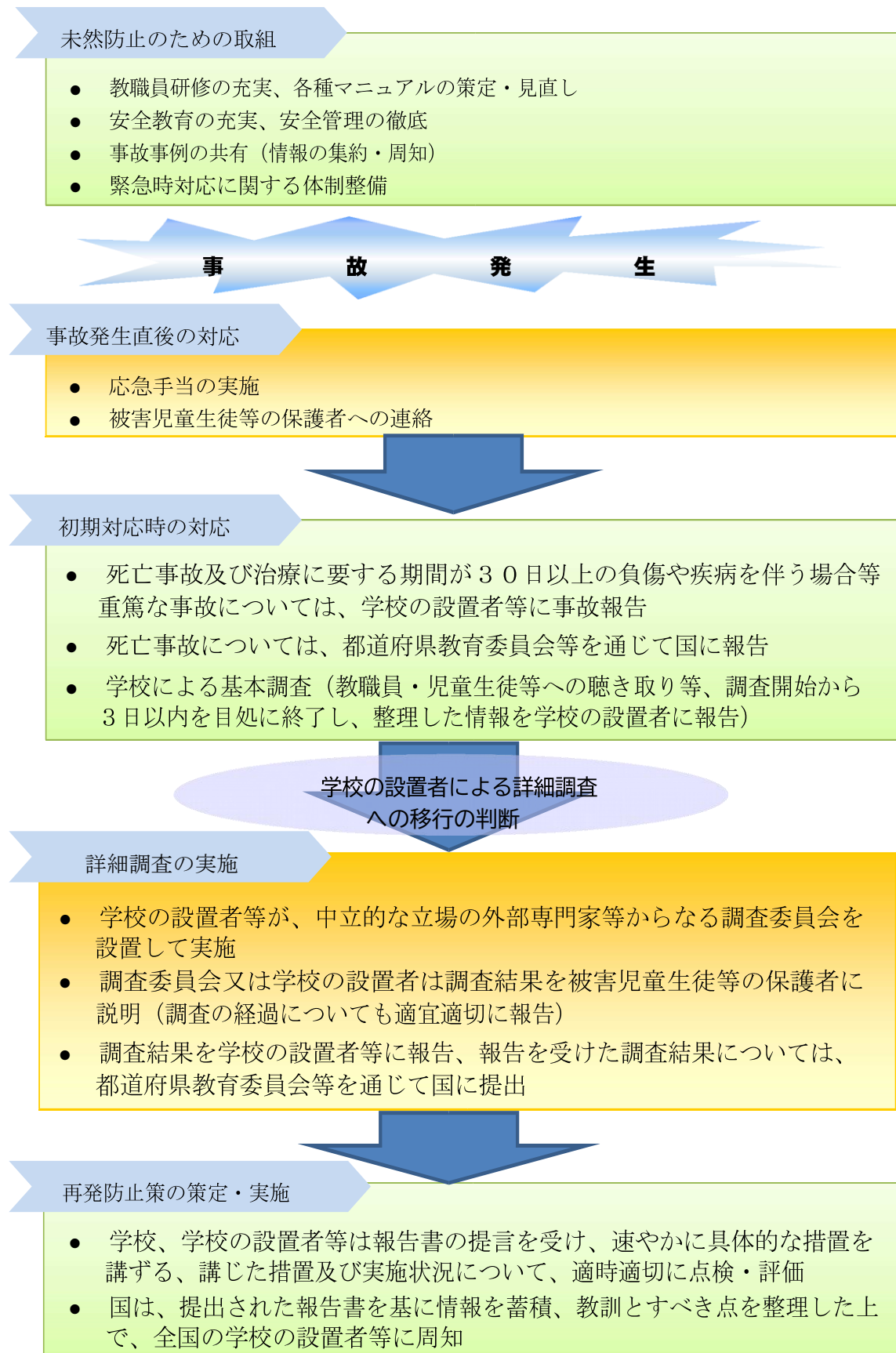
(3) 学校内・外の生徒事故対応メモ

事故者 氏 名	男・女	クラス		担 任		保護 者名	
TEL		保護者との 連絡状況					

相手方氏名	男・女	年齢		TEL	
住 所					

発 生 日 時	平成 年 月 日 ( )	時間帯	
発 生 場 所			
症 状			
原 因 等			
現場と発生の 状 況 等			
搬送先病院名		TEL	
病院での様態			
対 応 状 況			
保護者との連絡			

#### (4)「学校事故対応に関する指針」に基づく取組の流れ



※ 必要に応じて、保護者と学校双方にコミュニケーションを取ることができるコーディネーターを配置

(5) 様式第17号(第48条関係)

生徒事故報告書

6040—〇〇〇

令和〇年〇月〇日

宮崎県教育委員会教育長 殿

宮崎県立宮崎北高等学校

校長 〇 〇 〇 〇

次のとおり報告します。

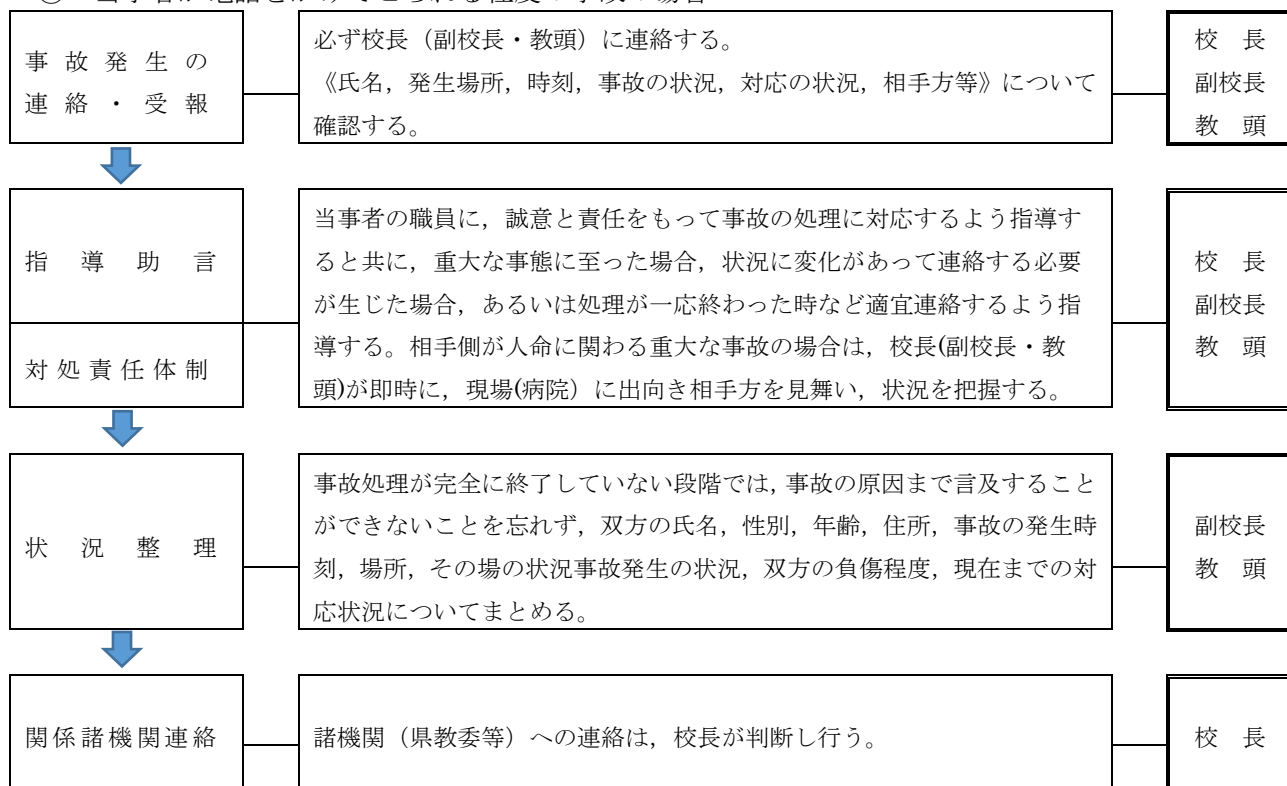
生徒	氏名 年齢(性別) 歳( ) 課程 学科 学年
保護者	住所 氏名 本人との続柄
事故の概要	日時: 場所: 内容:
今後の処置	
その他参考事項	

## 19 職員の事故

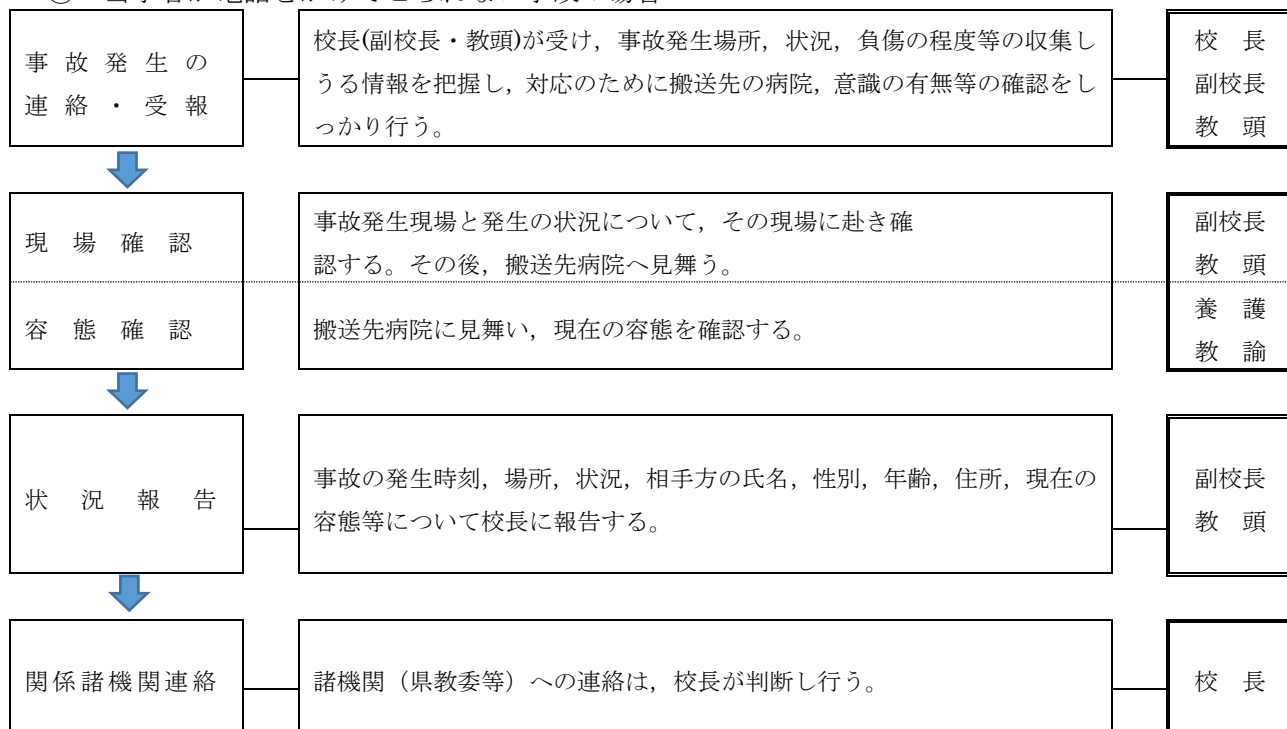
(1) 学校内における職員の事故 <生徒の場合に準じて対応する。>

(2) 学校外における職員の事故

① 当事者が電話をかけてこられる程度の事故の場合



② 当事者が電話をかけてこられない事故の場合



(3) 学校内・外の職員事故対応メモ

事故者 氏 名		職 名		年 齢		電 話 番 号	局番 ( ) —
住 所							

相手方 氏 名		年 齢		性 別		電 話 番号	局番 ( ) —
住 所							

発 生 日 時	平成 年 月 日 ( ) 曜日 時 分				発 生 場 所	
症 状	事 故 者			相 手 方		
発生現場と 発生状況等						
搬送先 病院名	病院 TEL ( ) —			事故処理 の 有 無	( ) 処理済み ( ) 未処理	
病 院 で の 容 態 等	事 故 者			相 手 方		
その他						

## 20 校内暴力

### (1) 生徒相互の場合

対応内容	処置内容	対応者
暴力事件発生	発見者は、その場の状況を見て（負傷の状況、一般生徒の動揺等）適切な処置をして双方の生徒を別々の部屋に導く。発生と発覚は同時でない場合もある。いずれの場合も救命処置第一主義で対応し、下記の措置を進めていく。	発見者
↓		
事情聴取	双方の生徒にそれぞれの言い分を聞き、事件に発展するまでの経緯、暴力の事実関係について把握し、暴力事件の全容を解明する。	学級担任 生指部
↓		
生徒指導	『暴力は絶対いけない』との指導と双方の言い分に対するきめ細かな指導を行う。	学級担任 生指部
↓		
保護者への連絡	生徒指導主事は、校長の判断を仰ぎ、学級担任と連絡を取り、学級担任が保護者へ連絡を取る。	学級担任 生指部長
↓		
保護者への対応	学級担任、生徒指導部、副校長・教頭が同席し、事件の全容並びに学校側の対応について保護者に説明し、今後の指導について協力を要請する。	副校長・教頭 学級担任 生指部
↓		
校内連絡	生徒指導部会・委員会を開き、事件の全容並びに今後の対応について協議し、校長の判断で生徒指導主事が事件の全容を全職員に報告し、職員にも指導の協力を要請する。	副校長 教頭
↓		
関係諸機関連絡	校長が判断し行う。	校長



## (2) 対教師暴力の場合

対応内容	処置内容	対応者
暴力事件発生	発見者は、その場の状況を見て（負傷の状況、生徒の動揺等）適切な処置をして生徒を個室の部屋に導く。発生と発覚は同時でない場合もある。いずれの場合も救命処置第一主義で対応し、下記の措置を進めていく。	発見者
↓		
報告	暴言も含め、どんなに小さなことでも対教師暴力は大きな問題として捉え、生徒指導主事を経て校長・副校長・教頭まで報告する。	発見者 学級担任
↓		
事情聴取	生徒指導主事は、当該生徒を呼び、事情を聴取する。当事者の職員については、校長(副校長・教頭)が事情を聞く。職員が病院へ行く必要がある場合は、指定の病院に搬送する。生命に関わる重大な場合に至った場合は、校長が搬送先の病院に見舞い、状況を把握する。	生指部長 校長 副校長 教頭
↓		
臨時職員会議	聴取した事情などから事件の全容を確認しあい、今後の対応のあり方（生徒への指導、教師の留意点など）について検討し、全職員協力して指導に当たっていくことを共通理解する。	全職員
↓		
保護者への対応	事件に至るまでの経緯を含めた事件の全容について知らせ、今後の学校の指導について理解を求め、協力を要請していく。	校長 副校長 教頭
↓		
生徒への対応	生徒の将来を考慮して、厳しくも暴力では何も解決しないことを諭し、関係職員との関係改善を図る。	学年主任 学級担任 関係職員
↓		
関係諸機関連絡	校長が判断し行う。	校長

## 21 いじめ

### (1) いじめ発生時の対応

対応内容	処置内容	対応者
いじめ発覚	いじめられている生徒の立場に全面的に立って、いじめの事実関係を徹底的に把握する。その際に、仕返しを恐れて全容を明らかにしない場合もあるので、十分に留意する。早期発見に努める。	全職員
報告	いじめの状況が認められた場合は、直ちに生徒指導主事、教頭、副校長・校長に報告する。	認知職員
実態調査	いじめに関係していた加害者・被害者双方に対し、個別かつ徹底的に事情聴取する。	学級担任 生指主事
いじめ・不登校・特別支援教育委員会	学校全体で、いじめ問題が起こった事実について共通認識する。さらに、学校としての対策および指導方針を固める。	委員会
関係生徒の保護者への説明、協力依頼	いじめ問題の全容が判明した段階で、いじめに関与した生徒とその保護者を一同に集め、いじめの事実について全てを保護者にも説明する。その際、校長、副校長、教頭、当該学年教員全員、生徒指導主事が必ず立ち合う。いじめ問題がどれほど深刻かつ重大な問題であるかを、生徒に十分、理解・認識させる。	学年担任会
具体的指導方法	いじめた加害者生徒から、被害者生徒に対して、一人一人きちんと謝罪と反省をさせる。また、保護者同士においても同様。物品や金品の場合などの弁済は、保護者の責任で行う。その際、いじめた生徒が、報復行為を起こさないよう徹底的に指導しておく。	学級担任 生指主事
関係諸機関連絡	校長が判断し行う。	校長

\* いじめ対応については、**学校いじめ防止基本方針**があり、基本方針の対応が大切である。

#### いじめ・不登校等対策委員会

1. 目的  
校内におけるいじめ・不登校の早期発見および対策を明らかにするために設置する。
2. 構成  
副校長、教頭、生徒指導主事、教務主任、特別支援コーディネーター、各学年主任、教育相談係、養護教諭、(関係職員)
3. 運営
  - (1) 定期的に委員会を開催し、いじめ、不登校の早期発見に努める。
  - (2) 各学級担任、教育相談係は連携を密にしながら早期発見に努めていくよう心掛ける。その兆候が認められた場合は、特別支援コーディネーター、生徒指導主事並びに教頭・副校長・校長と連絡を取り、臨時に委員会を召集し、対策等について協議する。全職員に指導方法を伝える。

(2) いじめ対応メモ

発覚日時	平成      年      月      日 (      )				連絡者	
発覚の状況						
被害者	年組	男・女	氏名		保護者名	(      —      )
加害者	年組	男・女	氏名		保護者名	
	年組	男・女	氏名		保護者名	
	年組	男・女	氏名		保護者名	
	年組	男・女	氏名		保護者名	
	年組	男・女	氏名		保護者名	
	年組	男・女	氏名		保護者名	
いじめの実態	被害者の言い分				加害者の言い分	
分析と考察						
今後の指導の留意点						
家庭との連携						